



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3743 号 2017.6.28 発行

バリアフリーふれあいおもちゃ博
も 福島 / 福島

「共遊玩具」で障害者理解 疑似体験ワークショップ

毎日新聞 2017年6月27日

視覚障害があっても触って動物の全体像が分かるように、子どもの手のひらに収まるサイズに作られたフィギュア

障害のある子もない子も楽しめるおもちゃ「共遊玩具」を紹介する「バリアフリーふれあいおもちゃ博」が24日から2日間、福島市早稲町の教育文化施設「こむこむ」であった。知的障害者が経験している世界を疑似体験するワークショップもあり、訪れた人たちは楽しみながら障害への理解を深めた。実行委員会の佐藤玲子さん(60)は「障害の有無に関係なく子どもたちが一緒に遊んで互いを理解し合うきっかけに」と望んだ。



タカラトミーが販売している共遊玩具約40点が展示された。

タカタ
/ 滋賀

民事再生法適用

「障害者の仕事守って」

売り上げの6割

東近江の作業所

毎日新聞 2017年6月27日

部品を組み立てる八身福祉会の作業スペース=滋賀県東近江市林田町で、金子裕次郎撮影



障害のある利用者約100人が就労する東近江市林田町の社会福祉法人「八身(はっしん)福祉会」(東近江市)の作業所では毎日35人ほどがタカタ製のシートベルトの部品製造に従事。施設長の小島滋之さん(49)はタカタに

ついて「品質を保つ講習会も開き、完成品には他の町工場と同じ対価を払ってくれる」と話す。

障害者に対応した3本の生産ラインが組み込まれた作業スペースでは、身体のみひや知的障害がある18～70歳の利用者が黙々とプラスチック部品にボルトやベアリングなどを組み込む。カチャカチャと金属が当たる音やガチャンと部品を締め込む音が響き、利用者の働く喜びを感じさせる。

タカタから受注するようになったのは20年以上前から。

福祉特化部門が始動 富士の市民活動団体「ことはじめ」 静岡新聞 2017年6月27日



「地域のつながり」をテーマに意見を交わす参加者＝富士市教育プラザ

富士市の市民活動団体「Fujiことはじめ」（赤沢佳子代表）は福祉に特化した部門「SASAERU（ささえる）」を立ち上げた。「子ども」などをテーマにさまざまな活動をする団体を結ぶ活動などを行う。24日夜、同市教育プラザで「SASAERUまち交流フォーラム」を開いた。

Fujiことはじめは、ボランティア活動に取り組んでいる団体やこれから活動を始めようとする団体、個人と連携し、高齢者施設を訪ねるイベントなどを展開してきた。SASAERUはFujiことはじめのメンバーとのつながりから、児童福祉などの分野で活躍する富士、富士宮両市の団体や個人が集まったグループ。今後は地域課題の発見などのための交流会や勉強会、フォーラムなどを開く。

交流フォーラムには約80人が参加した。「地域のつながり」をテーマに活発に意見を交わしたほか、両市の里親でつくる「ふじ虹の会」の坂間多加志代表による講演が行われた。

「森友」保育園に事業停止命令へ 大阪市児童福祉審が「妥当」意見



産経新聞 2017年6月26日
自宅で報道陣の取材に応じる「森友学園」の籠池泰典前理事長＝20日午前、大阪府豊中市

学校法人「森友学園」系列の社会福祉法人「肇國舎（ちょうこくしゃ）」（大阪市淀川区）が運営する認可保育園「高等森友学園」（同区）で保育士が不足している問題で、大阪市の児童福祉審議会は26日の会合で、市が提案した6カ月間の事業停止命令を「妥当」とする意見を吉村洋文市長に答申することを決めた。7月1日付で同命令が出されることが事実上、決まった。

この日の審議会は委員9人中7人が出席し、非公開で開催。市の担当者が、配置基準（常勤換算6人分）を満たす保育士が確保されていないなど、16日に実施した随時監査の結果などを報告した。

審議の結果、園児36人のうちほぼ全員が転園手続きを済ませているうえ、今後も人員確保が望めないとして、市が提案した6カ月間の事業停止命令を出すのが妥当と結論づけた。

吉村市長はこれまで、状況が改善されなければ7月1日付で事業停止命令を出す方針を明らかにしており、答申を受けて今年27日にも正式に表明する。

介護福祉士ら保育士試験で優遇へ...筆記一部免除 読売新聞 2017年06月27日

厚生労働省は、福祉系の国家資格を持つ人が保育士試験を受ける際、筆記試験科目を一

部免除する方針を固めた。

待機児童解消に向け、保育士資格を取得しやすくし、受け皿作りを急ぎたい考えだ。早ければ来年度の試験から免除する。

筆記試験が一部免除されるのは、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士のいずれかの国家資格を持つ人。筆記試験の全9科目のうち、「福祉職の基盤に関する科目」に分類される3科目が免除される。

保育士の資格は、試験に合格するか、「保育士養成施設」に指定された大学や短大、専修学校などで養成課程を修了することで取得できる。今後は介護福祉士の養成施設を修了していれば、保育士資格に必要な履修科目を一部免除する措置も実施する。

障害者も健常者も一緒にダンス 可児市で「ディスコ」 岐阜新聞 2017年6月27日



障害者と健常者が一緒に楽しんだ「みんなのディスコ」＝岐阜県可児市下恵土、市文化創造センター

障害者と健常者が一緒に音楽やダンスを楽しむイベント「みんなのディスコ」が、岐阜県可児市下恵土の市文化創造センターであり、約120人が音楽を通じて親交を深めた。

ディスコに足を運んで一緒に音楽を楽しむ場をつくろうと、市文化芸術振興財団が昨年に続いて企画した。

来場者はDJが流すクラブミュージックに合わせて自由に踊った。ショータイム

では、知的障害者支援施設「可茂学園」（同市瀬田）を利用する3人や、同市のダンス教室に通う小中学生、多治見市のダンスユニット「元気ィーズ・エンジェルズ」が、それぞれDJと共演してダンスを披露した。

同学園を利用する加治木隆治さん（40）＝可児市羽生ヶ丘＝は、ショーでアニメ「サザエさん」エンディングテーマのアレンジ曲に合わせて踊った。「みんな盛り上がってくれた。素晴らしい」と話していた。

’17都議選 特別支援学校、障害6生徒が「1票」 サポート受け模擬体験 /東京

毎日新聞 2017年6月27日

障害がある人の投票機会を広げようと、練馬区の特別支援学校「旭出（あさひで）学園」（岡田馨校長、児童生徒90人）で26日、都議選の模擬投票が行われた。区内に住む18歳以上の生徒6人が、配布されたばかりの選挙公報を基にして実際に候補者を選び「1票」を投じた。

同校には知的障害のある児童や生徒が通っており、実施中の選挙に即した模擬投票を初めて行った。はじめに区選挙管理委員会の原田昌子・情報啓発係長が候補者を紹介し、選挙公報を示して名前を繰り返し読み上げた。

福祉事業への融資最高 6億4100万円 県内16年度 佐賀新聞 2017年06月27日

日本政策金融公庫佐賀支店は、ソーシャルビジネス関連融資の2016年度の県内実績をまとめた。件数は前年度比23・1%増の80件。融資額は24・5%増の6億4100万円で、同公庫が発足した2008年以降最高となった。

ソーシャルビジネスは、高齢者や障害者の介護、子育て支援、環境保護などの事業。事

業者別では企業が64件で3億9200万円、NPOが16件で2億4900万円だった。

事業内容別では、通所・短期入所介護が19件で最も多く、精神障害福祉が11件、知的障害福祉が9件で続いた。使用目的でみると、運転資金が53件と全体の6割を占め、残りの27件は設備資金だった。

昨年2月から社会的課題の解決を目的とした融資も対象になっており、佐賀支店は融資増について「制度拡充の影響が大きい。佐賀未来創造基金などと連携を進め、融資の認知度も高まってきた」と説明する。

九州7県全体では、1367件、104億4800万円で、いずれも過去最高だった。

厚労省研究班 「遺伝情報で差別経験」3% 初の実態調査

毎日新聞 2017年6月27日

個人の遺伝情報の利用実態を調べていた厚生労働省の研究班は、回答者の3%が遺伝情報に基づいて保険の加入拒否や就職の内定取り消しといった差別的対応を受けた経験があったとする初めての調査結果をまとめた。遺伝情報の利用に法規制を求める人は全体の71%に上った。政府は個人に応じたゲノム医療を推進しており、厚労省は結果を踏まえて対策を検討する。

個人の遺伝情報を調べる技術が向上し、解析結果を基にがんなどの病気の診断や治療、予防に役立つゲノム医療への期待が高まっている。一方、将来病気になるリスクが分かれば雇用などで不利も懸念される。欧米は法律で差別防止を定めている国が多いが、日本は整備されていない。

調査は2月にインターネットを通じて実施し、20～60代の男女1万881人から回答を得た。不適切な経験を尋ねたところ、「医療保険の加入拒否や高い保険料の設定」が136人、「希望しない婚約破棄や離婚」19人、「内定取り消し」9人―などとなった。一方、医療機関での遺伝子検査や個人向けサービスの利用者は1～2%と少なく、家族の病歴などからリスクを判断されたとみられる。

法規制で求められる内容では「第三者への無断提供や転売の禁止」や「医師や公務員の守秘義務強化」が半数を超えて多かった。

別に実施した遺伝性乳がんなど遺伝性疾患の患者や障害者への聞き取り調査では、学資保険の加入時に遺伝子検査を受けたと伝えただけで加入を拒否されたケースや、婚約者の家族から遺伝子検査を受けるよう求められた事例が挙がった。

個人の遺伝情報で特定の病気のなりやすさは分かるが、複数の遺伝子や生活習慣、環境などの影響もあり、全ての病気が遺伝要因だけで決まるわけではない。一方、病気のリスクがあると分かった人が高額な保険に加入する可能性も指摘され、民間の保険会社には遺伝情報をサービスに活用しようとする動きもある。

研究班代表の武藤香織・東京大教授は「ゲノム医療の本格的普及を目前にしながら、日本は知識不足で倫理原則が普及していない。遺伝情報に基づく差別を禁ずる理念法の整備を本格的に検討すべきだ」と述べた。【千葉紀和】

精神医療の危機考える 精神保健福祉法改定案 廃案求め集会

しんぶん赤旗 2017年6月27日

「これでいいのか精神医療！ 精神保健福祉法改定案の廃案を諦めない」をテーマに26日、国会内で集会が開かれ、障害当事者や支援者ら約100人が参加しました。主催は、病棟転換型居住系施設について考える会。

3人が基調講演。考える会呼びかけ人代表の長谷川利夫さん（杏林大学教授）は、国が精神科病院に1年以上入院する約19万人の6割を「重度かつ慢性」とし、地域生活移行の対象から外そうとしている問題を指摘。基準を決めた厚生労働省の「研究班」に病院を

経営する人たちが多く参加しているなど利益相反の疑いがあると、「精神医療の利権構造」を批判しました。



次国会での精神保健福祉法改定案の廃案へ運動を強めようと開かれた集会＝26日、国会内

大阪精神医療人権センター運営委員の有我譲慶さんは、新規の強制入院（措置入院と医療保護入院）が15年間で2倍になり、強制入院が人口比で欧州の15倍にも上る日本の異常や、隔離、身体拘束も増え続けている実態を報告しました。

社会福祉法人うるおいの里理事長の氏家憲章さんは、精神医療の危機の実態を説明。「深刻な人権問題などを抱える精神医療の実態が十分知られていない。国民、地方議会・国会に訴えて世論を変え、政治の責任で政策転換を実現させよう」と語りました。

全国「精神病」者集団運営委員の桐原尚之さんが、措置入院患者への人権侵害が批判された精神保健福祉法改定案が継続審議になったことについて「廃案を求める大きな運動が政権に待ったをかけた。臨時国会に向け運動を強めよう」と呼びかけました。参加者から廃案を求める声が続きました。

オバマケア代替案、無保険者 2200 万人増 米議会予算局

日本経済新聞 2017年6月27日

【ニューヨーク＝大塚節雄】米連邦議会の中立機関である米議会予算局（CBO）は26日、上院共和党指導部がまとめた医療保険制度改革法（オバマケア）の新たな代替法案に盛り込んだ政策を実行した場合、無保険者が2200万人増え、4900万人にのぼるとの試算を発表した。5月に下院を通過した前回の代替法案に基づく試算を100万人下回るものの、無保険者が急増する見通しは変わらない。

試算はオバマケアを続けた場合と比べ、2026年までにどのくらい無保険者が増えるのかを予想した。連邦政府の財政赤字は10年間で計3210億ドル（約36兆円）縮小すると見積もった。

代替法案は全国民の保険加入義務を撤廃し、低所得者向け保険への補助金を縮小するのが柱。上院案は下院案をおおむね引き継ぎつつも、低所得者の民間保険への加入を促すための支援策を手厚くした。上院共和党内には異論も出ており、法案の行方は不透明だ。

障がい者乗馬大会復活 新ひだか 11人が楽しく交流 北海道新聞 2017年6月27日 ボランティアの協力で安全に競技を楽しむ障がい者乗馬大会の選手たち



【新ひだか】2012年を最後に町内の乗馬施設「ライディングヒルズ静内」での開催が途切れていた「障がい者乗馬大会」が25日、5年ぶりに同施設で開催され、愛好者11人が競技を通じ楽しく交流した。

ヒルズでは2001年の開設直後から障害者を受け入れており、09年からは一般大会の障害者部門から独立させる形で単独の大会として開催していた。しかし、運営を見直す中でヒルズでの開催が困難に。13年以降は別会場で開催した年もあったが、その後、大会自体が途切れていた。

同施設は15年から障害者対応をあらためて強化。日常の障害者受け入れを重ねる中でスタッフも経験を積むなど大会復活に向けた準備が整い、同施設が主催し、5年ぶりに元の会場で大会を開くことにした。

「うなぎ野菜」ブランド化へ 三島



中日新聞 2017年6月27日

◆NPO法人 「障害者の賃金アップも」

「うなぎ野菜」の栽培に向け野菜の種をまく施設利用者ら＝三島市谷田で

三島市名物のウナギの骨や頭を肥料に活用して野菜を栽培する取り組みを、障害者就労継続支援事業所を運営する三島市北田町のNPO法人「にじのかけ橋」が始める。同様の方法でサツマイモを育てている浜松市のブランド野菜「うなぎいも」を参考にした。「うなぎ野菜」としてブランド化し、障害者の賃金の向上や遊休農地の有効利用を目指す。

三島市内の料理店でつくる「三島うなぎ横町町内会」から加工時に出る骨などの提供を受ける。施設の機械で発酵させ、函南町丹那の「酪農王国オラッチェ」で牛ふんに混ぜて堆肥にする。遊休農地だった三島市玉沢、谷田地区の二カ所計二千五百平方メートルで、施設利用者らが堆肥を活用してサツマイモやジャガイモなどを栽培する。

「にじのかけ橋」が運営する施設で、障害の程度の軽い人が利用するA型事業所「ワンルーチェ」と、重い人が利用するB型事業所「アルシオン」の利用者計五十人が、肥料作りや農作業を担当する。一人当たり月額二万四千元程度にとどまる「アルシオン」利用者の賃金を、「うなぎ野菜」の効果で三万円に引き上げるのが目標だ。

野菜の栽培は、玉沢地区で四月末、谷田地区で五月中旬にそれぞれ始まった。施設の利用者や職員、ボランティアらが協力して種まきや水やりをしている。

ウナギの骨などを発酵させる機械は六月中に「ワンルーチェ」に備えられ、七月末からウナギの堆肥を畑にまく予定。育てた野菜は秋冬に収穫し、施設内やイベントで販売したり、「にじのかけ橋」が運営する食堂「サラダバー・ぼる」で調理して提供したりする。堆肥の販売も計画する。

本年度は試験的に、サツマイモやジャガイモのほか、ダイコン、ブロッコリー、ニンジン、トウモロコシなどさまざまな野菜の栽培に挑戦する。野菜の収穫量は計九百キロ、販売額は計五十万円が目標。来年度は、栽培に適した野菜を絞り込み、スイーツなどの加工品の開発を行う。「うなぎ野菜」の試みが成功すれば、他の障害者就労継続支援事業所にもノウハウを提供し普及につなげるつもりだ。

アルシオン職員で農福事業担当の鈴木涼太さん（24）は「野菜と堆肥のブランド化により、利用者が生き生きと働くことができ、より高い賃金を得られる環境をつくりたい」と意気込む。アルシオン利用者の山下貴志さん（39）は「おいしい野菜ができるといいな。賃金もアップしたらうれしい」と笑顔を見せる。（佐久間博康）

【池袋暴走事故】被告の医師に懲役5年の実刑判決 東京地裁「発作の危険性を軽視」指摘

産経新聞 2017年6月27日

東京都豊島区南池袋の路上で平成27年8月、てんかん発作で意識障害となり、乗用車を暴走させて人を死傷させたとして、自動車運転処罰法違反（危険運転致死傷）の罪に問われた精神科医、金子庄一郎被告（55）の判決公判が27日、東京地裁で開かれた。家令和典裁判長は「てんかん発作が起きる危険性を軽視しながら運転していた」と指摘し、懲役5年（求刑同8年）の実刑を言い渡した。

弁護側は「発作を抑える薬を飲んでおり、てんかん発作は予知できなかった」として、危険運転の故意が成立せず、同罪には当たらないなどと主張していた。

しかし家令裁判長は「自身も医師として、てんかんについて一般の人より知識を持って

いた上、過去にも発作を経験しており、医師から運転しないよう注意されてきたのに運転を続けてきた。厳しい非難は免れない」と指摘した。

判決によると、金子被告は27年8月16日、池袋駅東口地下駐車場から車を発進させた直後、てんかんの発作で意識障害に陥り歩道上を暴走。歩行者らをはね、東京都板橋区の薬剤師、江幡淑子さん＝当時（41）＝を死亡させた上、4人に重軽傷を負わせた。

江幡さんの父、隆司さんは判決後、「娘が無くなったことに変わりはない。歳月がたつにつれて胸の痛みが大きくなるばかりです」「金子被告には判決を素直に受け入れ、事故について深く考え、いつ、どこで、どんな考え違いをして、何が、どうしてしまったのか本当の意味で反省してほしいです」などとするコメントを代理人弁護士を通じて発表した。

アビリンピック和歌山 障害者、職業技能競う /和歌山 毎日新聞 2017年6月27日 喫茶サービスの種目で接客技能を披露する選手＝和歌山市園部の和歌山職業能力開発促進センターで、山成孝治撮影



障害のある人たちが日ごろ培った職業技能を競う第15回県障害者技能競技大会（アビリンピック和歌山2017）が24日、和歌山市園部の和歌山職業能力開発促進センターで開かれた。

アビリンピックは「アビリティー」（能力）と「オリンピック」を合わせた造語。障害のある人たちに職業能力を高めてもらい、企業にも積極雇用を進めてもらおうと1972年に始まった。

大会は県と高齢・障害・求職者雇用支援機構和歌山支部が主催。

社会と「友愛」育み20年 金沢市役所 /石川

20周年を記念した演奏で観客を魅了するマリンバ・フォレストのメンバーたち＝金沢市役所で、道岡美波撮影

知的障がいのある人の社会参加の場「喫茶友愛」と「友愛ショップ」がオープンから20周年を迎えたのを記念し、金沢市役所2階の市民ホールで26日、ランチタイムコンサートが開かれた。

JR金沢駅あんと内の「友愛ショップ」は1997年4月、金沢市役所市民ホール内の「喫茶友愛」は同年6月にオープンした

毎日新聞 2017年6月27日



親指で描くデジタル絵画...岐阜で展示 筋ジストロフィーの画家・道中さん 「生きる元気与えたい」

読売新聞 2017年06月27日

全身の筋肉が徐々に衰える難病「筋ジストロフィー」で寝たきり状態の画家・道中学さん（54）が、パソコンで描いた初のデジタル絵画展を岐阜市敷島町の「敷島珈琲店本店」で開いている。道中さんは「作品を通じ、多くの人々に生きる元気を与えたい」と訴えている。（茶山瞭）

同市長良の長良医療センター障害者病棟内の一室。

ベッドに寝たきりの道中さんが右手親指をわずかに動かし、スイッチを操作すると、そばにあるパソコンの画面に次々と文字が現れた。「いまはえをかくことがいきがいのなのでそのおもいでかいています」

病気の進行で、道中さんが動かせるのはまぶたや親指だけ。自分で呼吸ができないため、

人工呼吸器を着けており、言葉を発することもできない。

道中さんは10歳の時、筋ジストロフィーの診断を受け、地元・郡上市を離れて同センターに入院した。音楽好きで18歳頃、入院中の仲間とバンドを結成。リーダーとしてキーボードを操り、コンサートを開くなどしたが、メンバーの病気が進み、約15年前に活動が続けられなくなった。

47歳で体調が急変し、人工呼吸器を着ける生活が始まった。映画や音楽を鑑賞する日々を送っていたが、「新たな生きがいを見つけたい」と51歳の時、筋肉の微細な動きなどでパソコンを操作できるソフト「オペレートナビ」を使って試行錯誤し、アニメなどのデジタル絵画を制作した。その後、知人で岐阜市在住の写真家・沢田ひろみさん（59）の写真を基に、本格的に絵を描き始めた。1枚の絵を完成させるのには毎日2時間かけても、数か月を要する。制作期間が約1年に及んだ絵もある。

沢田さんは、初めて道中さんのデジタル絵画を見た時の印象をこう振り返る。「すごく細かく描かれていて驚きました。気の遠くなる作業だったと思いますが、道中さんなりに私の写真を解釈し、親しみやすい作品に仕上げてくださいました」

制作に取り組む道中さんの姿勢に心を打たれた沢田さんが尽力し、初の絵画展「道中デジタル絵画展 ～パステルの風～」が実現した。沖縄の海、北欧の少女、東山動植物園の植物―。会場には、作品の基になった沢田さんの写真とともに、パステル調の作品5点が並んでいる。「絵を描き始めて4年で、早くも絵画展を開くという夢がかないました」と喜ぶ。

道中さんは現在、自身の少年時代や故郷の風景の写真を基に描いている。「いつかは自分らしい完全なオリジナル作品を制作したい」と創作意欲は尽きない。

道中さんには、絵を通じ伝えたい思いがある。「自分で言うのはおこがましいけど、寝たきりでも親指だけで絵が描ける。僕と同じ障害がある人でも『おなじようにできるよ』」

絵画展は来月15日まで。問い合わせは同店（058・216・0557）。

堺市 重症障害児の保育園開設へ 来年4月 /大阪 毎日新聞 2017年6月27日

堺市は26日、たん吸引など医療的ケアが必要な重症心身障害児対応の児童発達支援事業所を併設した小規模保育事業所を、西区鳳北町10丁に来年4月に開設すると発表した。併設型の保育事業所は政令市では初の試み。定例記者会見で、竹山修身市長は「医療的ケアが必要な世帯の保育ニーズも年々高まっている」。

発達障害児支援 保育士らに研修 8、9月に府など 大阪日日新聞 2017年6月27日

大阪府と塩野義製薬は、発達障害児の支援に向け、保育士と幼稚園教諭らを対象にした研修を行う。8～9月に大阪市内で実施する。定員は各回250人。参加無料。事前申し込みが必要。

研修では発達障害の特性について理解を深め、具体的な支援方法を学ぶ。対象は府内の保育所、幼稚園、認定こども園などで勤務する保育士、幼稚園教諭、保育教諭など。

会場と日程は以下の通り。8月6日＝大阪府中央区の「ツイン21Midタワー」▽同9日、9月20日＝同区のTkp大阪北浜会議室。研修内容は各日いずれも同じで、発達障害の正しい理解と対応▽子どもの行動の背景を理解し、支援を考える▽家族とタグを組む、理解と支援を共有する―をテーマに行う。

問い合わせは電話06（6944）6689、府地域生活支援課。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行